

「税金は、空気に似ていると思う。」

南島原市立南有馬中学校3年 中村 うた

税金について考えた時、ふと思った事があります。それは「税金って空気みたいだな。」です。空気は、普段あまり意識しないけれどなくなったら一瞬で困るものだ。私たちは生きていく中で、当たり前のように空気を吸っている。でもその空気がなくなったら、息ができなくなってパニックになるだろう。税金も、日常ではあまり意識されなくなったら社会が成り立たない。そんな存在だと思った。例えば、道路が整っていて、信号がちゃんと動いている。学校に通って授業が受けられる。病院に行ける。ごみが毎週ちゃんと回収される。当たり前に見えるけれど、全部税金が使われている。つまり、税金は社会を動かす。見えない空気みたいなもので、みんなと暮らしを支えている存在です。

だけど、空気が汚れていたらどうだろう。息がしにくくなったり、体に悪影響が出たりする。同じように税金の使い方が汚れていたら、社会もおかしくなる。政治家の不正や、税金の無駄遣い。そういうニュースを聞くとまるで空気が汚染されたような気持ちになる。ちゃんと税金を払っている人が損する社会は、息苦しい。

だから私は、「払いたくなる税金」になってほしいと思う。ただ集めるだけじゃなくて「このお金がこう使われています」と分かりやすく見せてくれたら、もっと信頼できるし払う側も納得できるんじゃないか。見えないものだからこそ、透明でいてほしい。空気も税金も、きれいであることが大事だ。

まだ私は税金を払っていません。でもこれから大人になったとき、「税金を払う＝損する」ではなく、「社会に空気を送るようなもの」と思えるようになれるといいなと思っている。

もう一つ、私が税金について考えるときに感じるのは、「誰のための税金か」ということだ。多くの方は、自分の生活のため、身近なサービスのためと思っているかもしれない。もちろんそれも大切だ。でも、自分以外の誰かのために使われる税金にも、意味があるんじゃないか。」たとえば、自分が使わないかもしれない障がいのある人の支援、子育て支援、高齢者の福祉。こういったものにもたくさん税金が使われている。自分が困ったとき、見ず知らずの人の税金が自分を支えてくれる。それって直接は顔を合わせないけど、つながりあっている社会だと思う。それが税金という形でできるなら、すごく意味のあることだと思った。

だからこそ、私は「税金＝ただのお金」とは、思わず、見えない誰かとつながるための信号のようなもの。今はまだ学生だけど、こうやって税金のことを知って、自分なりに考えることが、未来の社会づくりの第一歩になると思っている。